

阪下圭八著『初期万葉』をよむ

古 庄 ゆ き 子

本書は古代日本において抒情詩がどのような道行で創出されたかを、時代状況と記紀歌謡、初期万葉歌個々の、きめ細かで鋭いよみを通しながら検証したものである。

ここできめ細かな読みというのは、一般的にいわれるように、一つの助詞、助動詞にまで目くばりをゆるがせにしないというふうなことも含めてなのだが、同時に岡本天皇御製の詞書をもつ四八五番の「人多に／国には満ちて／あじ群の／去来は行けど」に「歌垣の場に集う多衆が状景が暗示される」と立言されているように、一つ一つのことば、発想をその生れ出た場にかえし、同時代の中におき、そのことによつて一つのことば、ことばの連合の照射するイメージ、意味、詩的働きを見定め、更に、その個別的、時代的変容を見渡すことに、著者阪下氏が力を注がれているという意味である。多くの注釈書に依拠しながら、単なる訓詁注釈におちず、古代に

生きたことばを詩の問題としてよみとつておられることもそれに加わる。

それは作品を外側から説明するのではなく、むしろその内在律に外をみようとされる氏の万葉歌『文学作品のよみ方を示すものであると同時に、記紀歌謡から万葉への道程を、類型歌謡から個の抒情詩へと把えるこの著者の方法から出てくる要請でもあるだろう。

氏が初期万葉の時代と歌をどのように把握されているか、その全構図は、本書の編別構成からうかがい知ることができ、第一章を「記紀歌謡より万葉へ」とし、「わざうたについて―古代流行歌考」をはじめに据えたのは本書のもつともユニークな点であり、初期万葉の、より広くいつてこの時期固有の、創造力が分析・解明されていることにおいて注目される。

氏は記紀歌謡から万葉抒情詩への飛躍を可能ならしめる諸条件の形づくられた時期として、皇極から天智にわたる間を「わがうたの時代」と規定し、「歌が史上はじめて流行歌として広布し、それゆえにかつてなかつた新たな効験を世にもたらしつつあつた」土壌、つまり社会的、政治的環境を分析され、一方、個の「抒情詩」創出の道行を「前進させるバネ」となつたわがうたそのものの性格、機能を解明されるのである。これによつて万葉歌が記紀歌謡からのおのづからな発展でなく、創造のダイナミズムが歴史、社会と交錯するところにとらえられるようになったといえる。

氏もいわれるようにこうした視角を、つとに提起したのは吉野裕氏である。阪下氏は吉野氏が短章で「序論的見取図としても不完全」として提起したこの期の創造的特質、わがうたの歴史社会的、文学的性格・機能、役割をより詳細に分析、解明することで、吉野氏の「見取図」に精緻な裏付を与え、豊かな肉付をしているといえる。

本書の今一つの特質は、阪下氏が現在の万葉研究に顕著な代作者、巡遊伶人説に対して古代的個によるの抒情詩の創出を主張追求されていることである。それは氏が額田王をはじめ多くの「代作者」を擬せられ、万葉集中では「影うすき女帝」の座しか与えられていないかに見える斉明天皇の復権をはかることでもある。

氏は初期万葉を論ずる場合、例外なく取上げられる額田王

をとらず、斉明天皇をあげ、彼女の「万葉抒情詩形成への貢献をあらためてよみがえらせよう」と試みられている。

阪下氏は彼女につきまとう「代作者」問題を切り抜けた果に、彼女における文学＝抒情詩成立の契機を、七世紀半ばのデスポットであることと人間であること、各種祭祀の主宰者であることと現実の人間であることの齟齬に求め、斉明紀四年記載の愛孫建王の死を悲しんだ一連の歌を「女帝の内心のひびき」と聞かれるのである。実はここにも吉野裕氏の先鞭をみるのだが、それにしても「影うすき女帝」の復権にさまざまな角度から迫っている阪下氏は、抒情詩成立に新しい展望をひらいたといえよう。

阪下氏が後記でいわれるように万葉研究の盛行をいわれながら、初期万葉は「当節あまりはやらぬ領域」である。

戦後の一時期、この期の歌に光を当て、万葉歌の一頂点としての入麻呂前史としてではなく、独自の美のあることを、個々の歌のよみ方を通して示されたのは西郷信綱氏であり、石母田正氏であった。この両先達の各々の歌のよみ方には目を洗われるような新鮮さ、鋭さがあつた。それは詩的感覚の鋭さから来るものであることはもちろんであつたが、背後に古代、古代人に対する深い洞察があり、何より鋭い史的感觉が働いているためであつた。

この両先達によつてきり開かれた初期万葉のよみ方が、うけつがれず「当節はやらぬ領域」として打すてられているの

は、読者、研究者が史的感觉を崩壊させ、みずからに似た姿を万葉の抒情にさがし出す、好みの世界に閉じこもる状況から来ているのではあるまいか。

この中であって、阪下氏がこの先達のきり開いた道をうけつぎ、発展させた数少ない仕事をされたことに注目したい。

(平凡社刊 二二〇〇円)